

意見

富山県のような人口 100 万人程度の県で今後の人口減少が明らかな県において、こども医療の専門病院を建設することは現実的ではなく、栃木県のように県内にある自治医科大学、独協医科大学の附属病院内にこども医療を専門的に担うセンターを県が設置する（大学病院併設型の小児病院）ことが、もっとも現実的と考えます。

[自治医科大学 とちぎ子ども医療センター \(jichi.ac.jp\)](http://jichi.ac.jp)

[とちぎ子ども医療センター | 獨協医科大学病院 \(dokkyomed.ac.jp\)](http://dokkyomed.ac.jp)

こども医療センターに求められる医療は、**小児高度医療、小児専門医療、小児 3 次救急医療**です。

たとえば自治医大の大学病院併設型こども医療センターでは、

- 1) 小児科
- 2) 小児外科
- 3) 小児・先天性心臓血管外科
- 4) 小児泌尿器科
- 5) 小児整形外科
- 6) 小児脳神経外科
- 7) 小児移植外科
- 8) 小児形成外科
- 9) 子どもの心の診療科
- 10) 小児耳鼻咽喉科
- 11) 小児歯科口腔外科

12) 小児画像診断部 13) 小児手術・集中治療部 14) 小児リハビリテーション部の各専門診療科を揃えており、これらの診療科が協力してこども医療センターの診療を行っています。

富山大学附属病院では、上記の自治医大の診療科に加えて 15) 小児眼科もあり、すべての診療科で小児を専門的に診療できる医師が揃っており、こども医療センターに求められる小児高度医療、小児専門医療、小児 3 次救急を実際に現在も担っています。

今後の議論においてこのようなデータをしっかり見ていただいた上で、会議を進めるべきと考えます

令和 3 年 6 月 2 日

富山大学附属病院長

林 篤志